

エイズについて こどもと 話そう

監修：財団法人エイズ予防財団



なぜ子どもと エイズの話をするの？

すべての子どもたちが、エイズについて
本当のことを知ることが大切だからです。

子どもはエイズという言葉を知っています

しかし、テレビや遊び場、あるいは友達から子どもたちが聞かされている
多くのことは、正しいことばかりではないかも知れません！

多くの子どもが疑問を持っています

そして、エイズのことを心配しています。両親や家族以外に、誰が子ども
たちの疑問に答えるのですか？

エイズについて学ぶことはひとつのプロセスです

一度ですむ内容ではありません。エイズに関して子どもが安全でいられる
最良の方法は、エイズについて子どもと話し続けていくことなのです！

- 改まった話ではなく
- 多くの機会を利用して
- 子どもの成長に合わせて、
数年間にわたって



この小冊子は、エイズについて子どもと
話しやすくするための手助けをします。

まず、エイズについての 事実を知ってください

エイズは、後天性免疫不全症候群の略称です。
日本語ではエイズ。英語ではAIDSと表示します。

エイズの原因はウイルスです

このウイルスを
HIVと呼んでいます。

HIVの感染経路は主に3つです

性的接触による感染

感染者の精液や膣分泌液から、性器や直腸、口などを通してパートナーに感染します。

血液による感染

特に問題なのは、HIVに感染した注射器具での麻薬の回し打ちです。

母子感染

母親がHIVに感染していると、妊娠中の母親の体内で、また出産時や出産後に血液や傷口から感染する可能性があります。また、母乳による感染も報告されています。

その他の感染経路としては……

- 輸血用の血液は、万全の体制でチェックされています。しかし、現在の技術では極めてまれですが、感染の可能性を完全に排除することはできません。

HIVとエイズについて

誰もが、HIVに感染する可能性があります

男性でも女性でも、若くても高齢でも、同性愛者だろうと異性愛者だろうと、だれでも感染する可能性があります。生きているかぎり、リスクはつきものなのです。

感染イコール発病ではありません

HIVに感染してからエイズを発病するまで、平均約10年の潜伏期間があります。

HIVに感染していても、通常の生活が送れます

感染者自身も、自分が感染しているかどうかわからない場合があるのです。でも、感染している以上、他の人に感染させる可能性があります。

HIVは、日常の接触では感染しません

こんなことでは感染しません！

- 体に触れたり抱き合っても
- 感染者のとなりに座っても
- 公園などの水飲み場やプールでも
- 一緒に食器で食べたり、コップのまわし飲みから感染することはありません。



HIV感染やエイズは予防できるのです。

- 無防備なセックスをしない。
- 他人の血液に直接触れない。
- 注射器や注射針は絶対に共用しない。



もう少し知ってください

感染の心配のないセックスも、もちろんあります

次のようなことを確認し合えばセックスで感染することはありません！

- 二人ともHIVに感染していない。
- 他の誰ともセックスしたことがない。
- お互いに、これからも他の人とセックスをしない。
- 誰とも注射器や注射針を共用したことはない。



HIV感染の予防には、コンドームが役立ちます

ただし、正しく使用することが重要です。セックスの最初から最後まで使用しなければ効果はありません。コンドームは破れたり、はずれたりすることがあります。

「セーフターセックス」とはコンドームを使ったより安全なセックスのことですが、「セーフターセックス」イコール安全なセックスではありません。



これらのことは、HIVやエイズについての基本的な事実です

もし疑問があったり、もっと詳しい情報が必要な場合は、15ページの相談機関に連絡してください。

エイズについて 話をしよう！

残念ながら、エイズに関するニュースを見たり聞いたりする機会が増えています。
まだ早いかなと思っても、その時が子どもにエイズのことを話すチャンスです。

すべての子どもに対して

- 日常生活の中でエイズについて話す方法を見つけます。例えば、テレビでエイズのニュースを見ながら。
- 質問に答えるときは、ごまかさずに正直に話します。もし自分が知らないことであれば、はっきり「知らない」「わからない」と言うことです。子どもと一緒に答えを考えてくれることがあります。
- 思春期やセックス、エイズについて、子どもの年齢に適した本を読んで聞かせることです。
- エイズ患者を思いやる気持ちを持たせましょう。ボランティアグループなどに子どもと一緒に参加することは、子どもの情操教育にも役立ちます。



就学前の子どもと話す

何をどう話すか、子どもにいちばんよい方法を
親は知っています。
ここに少しだけヒントをあげておきましょう。

詳しい話をする必要はありません。
子どもには、安全についてだけ、話してください。

子どもに 話すことは

- 「子どもが、エイズという病気になることはないから、心配しないでいいのよ」
- 「エイズは、かぜのように簡単にうつる病気ではないのよ」など。

話すときの ポイント

- 話すときに、具体的な事例を使わないこと。例えば「割れたガラスで傷ついて」「針を刺して」などと使わない。
- 体の部位については、正しい名称を使うこと。
- また「蚊や虫に刺されるとエイズになる」などの間違いを、そのままにしておかないことです。

●この年齢の子どもは、
こんな質問を
することがあります。

そして答えは…

【質問】 悪い子だと、
エイズになるの？

【答え】 いいえ。悪い人がエイズに
なるのじゃないのよ。

【質問】 注射をすると
エイズになるの？

【答え】 いいえ。注射は、病気にな
らないようにするためののよ。
エイズにはならないのよ。



小学校低学年の 子どもと話す

小学校3年生までの子どもには、
エイズについての基本的な事実を話します。

子どもに話すことは

- 「エイズは、血液の病気の原因になるウイルスが入ってうつる病気なの」
- 「学校でうつることはないし、エイズウイルスに感染している友達と遊んでもエイズになることはないのよ」
- 「他の人の血液には、触らないようにするのよ」
- 「他の人の血液がついたときは、水道の水できれいに洗うのよ」など。

話すときのポイント

- 具体的な例で話します。
例えば、傷口に絆創膏を貼るときに「傷口があると、そこからバイ菌が入ってくるのよ。だから、ちゃんとふさいでおきましょうね」など。
- 詳しく話す必要はありません。
例えば「セックスとは愛情を表現する方法のひとつで、二人が体を寄せあうこと」などと話します。

●この年齢の子どもは、
こんな質問を
することがあります。

そして答えは…

[質問] どうしてエイズになるの？

[答え] 大人になると自分を守るようになるけれど、うっかり自分を守るのを忘れていると、誰でもエイズウイルスに感染することがあるの。

[質問] 子どもでもエイズになるの？

[答え] ほとんどないのよ。でも、お母さんが感染していたら、赤ちゃんの時に、その子どもにエイズウイルスが感染することがあるのよ。



小学校高学年の 子どもと話す

思春期に近づいた子どもには、セックスについてきちんと話す必要があります。もちろん、それは親の価値観によって決まることですが・・・

子どもに話すことは

- 思春期について。胸の発達や生理、夢精のことなど。
- セックスの意味（子どもは、セックスとは抱擁やキスと考えているかもしれません）。
- 血液の働きや免疫について。
- 子どもの知っているエイズの知識の中で、間違いがあれば訂正し、エイズに対してむやみに悪いイメージを持たせないようにする。

話すときのポイント

- 正しい情報に接する機会を与えることです。
- エイズやセックスについて話し始めるときです。この年代は、感じている疑問を的確に表現することが難しいかもしれません。

●この年齢の子どもは、こんな質問をすることがあります。

そして答えは…

[質問] わたしは異常なの？

[答え] いいえ。誰でも、その人にふさわしい速さで成長するのよ。
(乳房の発達や性的能力についての関心もあります)。

[質問] いくつになったらセックスしていいの？

[答え] 年齢や体の大きさとセックスするのではないのよ。
大人になるというのは、体だけでなく、精神的にもいろいろな準備が整ったということなの。
そうしたら、セックスについても考えられるようになるわ。

中学生や高校生と話す

この年齢になると、アルコールや薬物、セックスなどに関する仲間からのプレッシャーに直面するようになります。仲間からではなく、両親から正しい話を聞くことが大切です。

セックスや薬物について話し合う

難しいことですが、親が心に留めておきたいことは、

- 中学生や高校生がHIVに感染するのは、まれである。
- この年齢の子どもの考え方や行動のすべてをコントロールすることはできない。
- 子どもが賢い選択をするように、勇気づけることができる。

中学生や高校生に話すことは

- 避妊やコンドームのこと。それがHIV感染の予防に有効であること。
- 性感染症のこと…エイズも、性感染症に含まれます。
- お酒や薬物が危険であること。

話のきっかけをアドバイスしましょう

- 落ち着かない感じがするのは当然です。そのときは正直に「このことを話すのは自分にとってやさしいことではないけれど、自分が子どもの時に親が話してくれたらと思っていたことだから、素直に話そうと思うんだ」などと話しかける。
- 最初に、いま世界でHIVに感染している人の多くは、10代に感染した人が多い、ということの説明する。

話すときのポイント

- 微妙な問題だからといって、先に延ばそうなどと思わないことです。まず彼らの意見を聞くことから話を始めるのが有効です。車に乗っている時などが、話しやすいかもしれません。
- どんな話題でも、彼らの考えを尊重して話を進めること。この年代は疑問や心配ごとを、本当は親に話したいと思っています。

エイズと人権を話す

HIV感染者やエイズ患者の人権を尊重し、
援助していくことの大切さを話してあげましょう。

ライアン・ホワイト君を知っていますか？

一九七二年十二月八日、ライアン君はアメリカのルイジアナ州ココモという町に生まれました。十三歳になったある日、ライアン君は肺炎を起こして病院に担ぎ込まれました。診察の結果、彼がエイズウイルスに感染していることがわかりました。子どもの頃、血液の病気の治療で使った血液製剤が感染の原因でした。

一九八一年に初めてエイズ患者が発見されて三年。世界中がエイズパニックに陥っていた時でした。

六ヶ月の闘病生活の後、ようやく学校に戻ったライアン君の居場所はどこにもありませんでした。

「何で学校に来るんだ！」

「エイズは出ていけ」

「おまえと話すときエイズがうつるだろ！」

学校ばかりか、町中の人がライアン君を避けるようになりました。

一家は住み慣れたココモの町を追われ、シセロという小さな町に引越さなければなりません。シセロの町や学校はライアン君を特別扱いせず、無事に中学校を卒業することができました。

高校に進学したライアン君は、新しい友達もでき、ガールフレンドもできました。

この頃から彼は、勉強だけでなくエイズについての啓発活動にも積極的に参加するようになっていました。エイズの進行を抑える治療を続けながら、テレビで話をしたり、アメリカ議会でも話をしました。

ライアン君の話を聞いて、女優のブルックシールズや歌手のエルトンジョン、そして多くのスターがライアン君を応援してくれるようになりました。

世界中の人がライアン君を知ったとき、彼の体内では出血が始まっていた。エイズウイルスは確実にライアン君のからだをむしばみ続けていたのです。



「もう、時間の問題です。ライアン君は、本当によくエイズと闘いました」

ライアン君は医師の言葉を遠くに聞いていました。お母さんは、涙が止まりませんでした。

「ライアン、あなたは誰のせいでもない病気にかかって、そして皆のために、一生懸命生きてきたのね。世界中の人がきつて、あなたのことを忘れないわ……」。

ライアン君の書いた本のなかに「ぼくが一番望むことは、
みんなが今までどおりつきあってくれることです」とあります。

